



「人として生きていくための勇気と自信を培うサポート活動」

「40歳くらいまでのひきこもり経験者・不登校・学校中退・対人不安・心理面サポートを必要とされる方への居場所提供・フリースクール活動・個別指導学習サポート・家庭教師・家庭訪問・カウンセリング面談・各種相談活動」

「謹賀新年」

少し遅くなりましたが、明けましておめでとうございます。月日が経つのは早いもので、私がKSCEに携わるようになってから、約9年が経ちました。様々な利用生と出会い、関わってきましたが、一貫して感じるのは彼らに対する尊敬の念です。

私自身は何も考えず小中高校を卒業し、何に興味があるのか不透明のまま大学へ進み、特にやりたいことが見つかった訳でもなく、ただ面接に通った会社へ就職し、現在に至っています。順調と言えば順調ですが、そこには何の意思や願望もなく、目の前にある線路の上を周囲に流されるまま進んでここまで来ました。いわゆる「普通」の人生で、それを悲観的、否定的に捉えている訳ではありませんが、特別誇れる訳でもありません。

この利用生たちは程度の差こそあれ、その「普通」の線路からはずれた子たちだと思っています。そしてまた、もう一度学校へ行きたい、勉強がしたい、大学へ行きたい、夢を追いたい、人と話したい、話を聴いてほしい、病気の自分を分かってほしい、と自らの意思や願望を持ってこのKSCEに足を運んでいる子たちだとも思っています。「周りに流されて生きることができるのは才能だ」という利用生がいました。けれど周りがない中、何とか現状を変えようと悩み、もがく方がよっぽどすごいことだと私は考えます。現在KSCEから遠ざかっている子

も同様です。しんどい、と感じながらも生きているだけで、十分偉い、頑張っている、そう感じます。

一番してほしくないことは自己否定です。例えば他人に「高校はどこに行っていたの?」「仕事は何をしているの?」と訊かれた時に、「ちゃんとしていない・・・」「何もしてない・・・」と萎縮するのは非常にもったいないと思います。紆余曲折しながらも何とか道を歩んできた、その自分をしっかりと認めてあげてください。少なくとも私からすれば尊敬に値します。

仕事やプライベートが忙しいので、今月からKSCEを離れますが、機会があればまたお話ししましょうね。本年もどうぞよろしくお願い致します。

(片岡 奈々美)





カウンセラーの目

「余計な事が気になって」

新年の休日を過ごしていたある日、超有名になったアニメが地上波初上映ということで放送されていた。

まあ、あれだけ評判になったアニメだから、ここは見ておかないとね……ということで、デレーっとしながら眺めていた。

印象……？

感想……？

このアニメのファンからはヒンシュクを買うかな……。

……いやあ……、この作品がどうしてズゴイ人気になったのか分からないまま、小さなことや余計なことが気になってしまって、感想どころじゃなくなっている……。

登場人物が意識レベルでの入れ替わりをしているという状況で、数回の入れ替わりを体験していて、それを「奇妙な夢」と、しばらくの間、思い続けているって、あるんだらうか……と、思ってしまった。

現実にそういう体験をした人の詳細な体験談とかインタビュー記録とかは無さそうだけど、「現実に入れ替わっている」状況を「夢と認識する」などということはありませんだらうか……と、思ってしまった。

入れ替わりから戻ってきた時には記憶が薄れているということらしいので、「あれは夢だったのか」と思っても仕方が無さそうにも思えるのだが、現実に入れ替わっている状況で体験する「実感」は文字通り実感するはずなので、「こんなのは夢だと思いたいという気持ち」になるのは分かるが、そういう気持ちを打ち砕くほどの「現実感」にさらされることになるので、「夢だと思いたいという希望」は早々に崩壊することになる……。「現実の持っている現実感」というのは五感を同時に刺激してくるし、肺や心臓、血管、その他内臓からの感覚も「現実感」を伝えてくる……それらを無視して「夢と思い続ける」事なんて可能だらうか……と、思ってしまった。

そんなことを考え始めてしまうと、物語の開始からしばらくの登場人物二人が、あたふた、ドタバタする展開の部分が、ほとんど楽しめないまま過ぎてしまった。

この物語の登場人物は普段から日常生活での現実感を感じることでできない人生を送ってきて、現実の日常生活を夢の中と同じに感じている人だという設定なのか……とも考えたが、物語の筋道としては、むしろ「熱心に自分を把握しようとしている人物」のように描かれているように思えて、どういう視点で見たら良いのか……と、混乱してしまっ

た。次は村のようすと神社の関係が気になってしまって、中盤以降の展開が十分楽しめないままになった。

絵で見ると、村はきれいな円で囲まれていたのでカルデラかと思ったのだが、火山や温泉湧出は無いようすなので、クレーターということなのかと考えていたら、千年ほど前に流星の落下があったという説明が物語の展開の中で出てきたので、村はクレーターの中に開発され発展してきたのだと判明した。

千年ほど経過して、あれだけきれいな円になっているということは、その時の流星は真上から垂直落下したと思ったのだが、(千年ほどまえの落下の情景は描かれていなかったと記憶しているが) 物語の中で描かれている流星は、地表に対して少し角度がついた状態で落下しているようで、千年ほど前の落下が同じようなら外輪山があんなにきれいに同じ高さになるだらうか……と気になってしまった。

角度がついた状態で落下して流星の核の部分が地面に斜めに突き刺さっているのです、その上方への延長線上に神社を祭ったから神社が高台(外輪山の一部)に建っているのだらうか……と思ったが、「御神体」に「神酒」を奉納する場面は外輪山の中心点のよう

に思えたので、「御神体（流星の核）」は円の中心にあるということと思え、そうすると千年ほど前の落下は、やはり垂直落下ということのように思えた。

でも、そうすると神社はなぜ高台にあるのだろうか……と、また気になってしまった。落下直後に現場に近づこうとしたが、高温で近づけなかったのも、ようすを見守ることのできた外輪山を少し下った所で何日も経過を見ていて、そのときに野営地として整備した施設から神社になっていったという経過なのだろうか……と勝手に物語を創作したりして、とりあえず納得することとした。

で、代々神社を守り続け、御神体に舞と神酒を奉納する儀式を司ってきたのが女性登場人物の一族ということのようだったが、物語の中で名前の付け方が適當すぎるのではないかと気になった。

千年ほど前の流星落下が神社の成り立ちということだと、神社の一族は千年ジャストでは無いにしろ、九百年近くは御神体をお祭りしてきたことになり、男性である神主が中心なのか、女性である巫女が中心なのか神社の来歴が不明だけど、歴代母系で継いで来たとなると、大雑把に見積もっても祖母の代で30代以上になりそうなのだが、祖母の名が「一葉」で母が「二葉」と来て娘が「三葉」というと、何だか三代前が初代のように思えてしまう……ということ、気になってしまった。

そこで、また、勝手に創作して一族は「一葉」から「九葉」まで名乗ったら、始めに戻って「九葉」の娘は「一葉」と名乗るというシステムになっているとすれば、この祖母は正式には「三代目一葉」という事で、一応納得できる……と、思ったら、「三葉」の妹が「四葉」を名乗ってるじゃないか……これはいけませんよ……「四葉」を名乗るのは「三葉」の娘でなくては……妹は「四葉」でなく「三枝」とか「三華」「三実」とか「三代目三葉の傍系」という名前にしないとシステムが崩壊してしまいます……このままで良いのか「妹四葉問題」は千年近く続く神社の歴史と伝統を揺るがすほどの大混乱を引き起こしかねない……と、またまた気になってしまった。

こんな状態では、物語が流星落下から村人を救おうというクライマックスに展開していても、落ち着いてみていられ無くなってしまっていた。

さらに、ここで、「村長（父）」が「娘（実は意識レベルの入替中）」の警告に対して「馬鹿なこと言うな」みたいな態度をとるシーンがあるのだが、これが違和感があって、気になった。

「若者の突飛な（斬新な）考えを、頭から否定する年長者」という「お決まりのイメージ」で「村長」を描いているようだが、このシーンは必要無いと思えた。

むしろ「若者は柔軟で、年長者は頭が硬い」という「頭の硬い考え」から付け加えられた不必要で整合性の無いシーンと思えた。

どうして最近のアニメなのに、いつまでも古くからの固定観念を、改めて押さえるようなシーンを入れるのだろうか……若い世代がストーリーを作成しているのだとしたら、若い世代の方が、よほど古臭い固定観念に縛られているように思えてしまう。（実際に製作しているのは年長者の「おっさん」ということなのかな……。）

現実には「年長者の多様な状況を踏まえた柔軟な提案に対して、こうと決めたら自分の考えを変えようとしない頑固な若者」という展開が山ほど有るのに、この「古臭い固定観念」は歴代引き継がれていくのだろうか……。

まあ、物語は、その後、「村長」が、考えを変えて住民を避難させるという展開になるが、この「村長（父）」が「娘」の進言を否定するという事は、ここまでの物語の筋道からすると有り得ない。むしろ、「ここに流星が落ちてくる」という娘の話を聞いて、即座に住民非難の手続きをとるという流れのほうが自然に思える。

思いのズレから神社の一族から距離をおいて「村長」になった人だが、その一族の特性を持った女性（二葉）と係わりを持ち、一族の一員となって娘が二人できるまで生活を共にした人物が、自分の娘の必死な発言を「馬鹿なこと」「いい加減なこと」と頭から否定する方が不自然じゃないだろうか……。

山ほど気になることが出てきてしまって、気がついたらエンディングテーマ……最後に出会いがあったので、ハッピーエンドということに成るのだろうか……二人が結ばれて、娘が生まれる（妹と同じ名前になるが）ぜひとも「君の名は、四葉」としてもらいたい。

（高石 公資）

イベント紹介・報告

☆12月3日
京都市ユースサービス協会主催
講演会&交流会 ブース参加

毎年行われている公益財団法人京都市ユースサービス協会主催のひきこもり関連の講演会と支援団体が出展して当事者との情報交換をする場としての交流会が行われました。今年も盛況でたくさんの方がお越しになっておられました。



☆12月7日
集い場○レクリエーション部
ミーティング

1月14日に外で遊ぼうということになりました。



☆12月7日
集い場○学食 walk
龍谷大学大宮学舎

参加者がいなく、延期となりました。

☆12月9日
集い場○散策部 嵐山花灯路

この時期に行われている嵐山花灯路に行きました。寒かったですけどライトアップされた竹林などが幻想的でした。



☆12月15日
集い場○ものづくりかふえ

前回より継続している各自の作品を進めました。1月28日に豊国神社の手作り市参加決まりました。

☆12月19日
集い場○健康体操教室

今回は多目の参加者で盛況でした。腸の調子上げてすっきりした体調に向かっていきますように。動画をフェイスブックページなどに今後上げていきます。

☆12月22日
集い場○散策部と学食 walk
ミーティング

2月15日精華大学に決まりました。
3月に龍谷大学大宮学舎の予定です。
散策部は3月に実施となりましたがまだ決まりませんでした。
3月実施分は2月9日ミーティングで決定いたします。

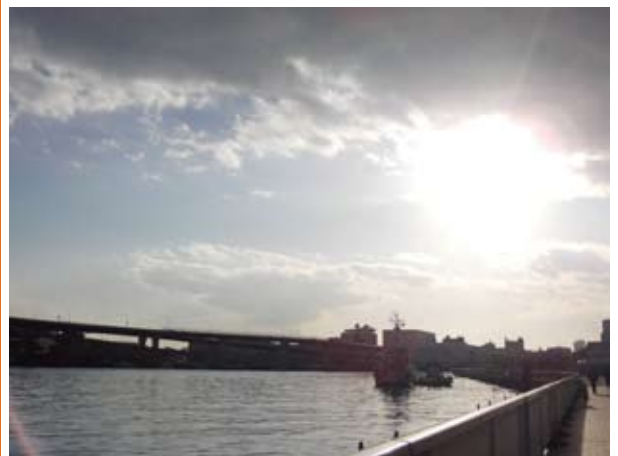
☆12月23日
クリスマス会と植物園
北山イルミネーション

毎年恒例のクリスマス会はケーキ作り・
パーティ・ビンゴ大会と楽しみ
今年は北山に出かけ植物園のイルミネーション・北山の教会のイルミネーション
を見るという盛りだくさんなイベント実施日でした。



☆12月28日
集い場○レクリエーション部

年内運営最終日、みんなでゲームと
かして楽しいひと時でした。



お知らせ

☆ 機関紙の購読または設置していただける方を募集しています

・当所の活動報告を行う機関紙「KSCE 通信」や案内三折パンフレット・各種活動チラシ・同居団体個別指導学習塾「個別教育予備校 MES」の三折パンフレットなどをおいていただける方・場所の情報を教えていただける方などを募集しています。

・個人で機関紙を購読という形でご支援いただける方募集しております。機関紙購読は送料込みで年3600円でご支援をお願いしております。メール添付による個人の方は2400円・関連団体や連携団体の方は原則無料で送付させていただいております。

・機関紙に広告を掲載させていただくことでの広告料という形式でのご支援も募集しております。

・機関紙は紙面による配布とPDF形式によるメール添付形式で行っております。

☆ 賛助会員・寄付会員を募っています

賛助会員は12000円/年

寄付会員は金額は任意です。どちらの会員も機関紙による活動報告をさせていただきます、会員の種類・金額により、ものづくりかふえ活動での手作り品のお礼をさせていただきます。寄付会員の方は、良ければ機関紙に寄付の方のお名前を掲載させていただけると幸いです。

☆ 物品寄贈も随時募っています

衣類・雑貨・書籍など市役所前フリマに出店して販売できるものを随時募集しています。ゴミの減量目的のリユース活動として、フリマの収益は当所の運営に充当させていただきます。NPOの苦しい会計の手助けをしていただけると幸いです。また当所の学修サポート・フリースペース提供・フリースクール活動で使用できる教材・赤本・高校卒業程度認定試験対策問題集・教科書・教科書ガイド・問題集・マンガ・小説・知育玩具・パズル・ボードゲーム・カードゲーム・スポーツグッズ・収納関係（要事前相談）・OA機器・OAサプライ等を随時募集しています。宅急便（費用はお願いしています）・持ち込みなどをお願いしております。徒歩圏内は台車でのお伺いも可能です。賛同していただける方は電話・メールでお申し出ください。もしよろしければ、通信による活動報告や、通信へのお名前の記載をさせていただけると幸いです。

中京区 匿名様、北九州市 匿名様より寄贈いただきました。ありがとうございました。（お名前掲載の許可をいただけた場合には氏名で掲載させていただきます）

○ 京都教育サポートセンターの活動をご支援ください

ボランティア募集・物品寄贈・賛助会員・寄付会員・などのお問い合わせはお気軽にお申し出ください。電話（075-211-0750）は火曜日～土曜日の11時から18時（時間外も代表在中時は対応いたします）メールは24時間受付 soudan@ksce.jpn.org まで。

集い場○

集い場○（サークル）は活動内容が決まっている中でその内容に対して参加者が集って交流をしたりしていくものです。

健康体操教室	次回 2月20日火曜日	14時半～	
活字倶楽部	次回 2月14日水曜日	13時半～	
学食 Walk	次回 2月15日木曜日	12時	事務所集合 精華大学
	2月9日金曜日	14時半～	ミーティング
散策部	2月9日金曜日	14時半～	ミーティング
レクリエーション部	2月1日木曜日	14時半～	ミーティング
ものづくりかふえ	2月16日金曜日	15時～16時	

※アポロ活動・集い場○活動への参加には原則として事前申し込みが必要です。（内部生は事務所内活動は連絡なくても可能ですが変更の場合もあるので軽くスタッフに伝えるだけでもありがたいです）また利用生でない方の参加申込は初回に連絡先・名前・年齢が必要です。2回目には事前アンケートの記入をお願いいたします。

アポロ活動

アポロ活動はフリースクール活動のうち定期的に行っている集い場○活動以外のものを指します。

アポロ11号クルーが月面に最初の一步を踏み出したことに倣って社会への一步を目指すエネルギーの充填につながることを目的としています。

単発レクリエーションイベント・飲食系・パーティ系統・社会活動・他者主催イベント参加などです。

ボランティアスタッフ・イベント実施日お手伝いスタッフ募集中

現在スタッフ数が11名と多い時の半分位で活動しており不登校経験者・ひきこもり経験者・対人関係が不安な方のサポートをお手伝いいただける方を募集しております。詳細はホームページの募集ページをご覧ください。

木曜日以外不足状態、イベント実施日も不足状態です。皆様のお力をお貸しください。

編集後記

この冬は寒い冬となっています。個人的には先日風邪を引きました。皆様も体調お気をつけくださいね。

京都教育サポートセンターではボランティアスタッフを募集しています。20歳以上40歳代までの方で興味がある方お気軽にお問い合わせください。

（南山 勝宣）

2018年2月

日	月	火	水	木	金	土
				1 集い場レクリエーション部 アポロ活動 豆まき	2	3 アポロ活動 節分祭
4	5	6	7	8	9 アポロ活動パレット清掃 集い場O 散策部学食 Walk	10
11	12	13	14 集い場O 活字倶楽部	15 集い場O 学食 Walk	16 集い場O ものづくりかふえ	17
18	19	20 集い場O 健康体操教室	21	22	23	24
25	26	27	28			

2月

(1月11日 時点の予定)

1日(木) 集い場Oレクリエーション部 ミーティング 14時半から 参加費無料
 1日(木) アポロ活動 豆まき
 参加費 内部生 無料 その他100円
 3日(土) アポロ活動 節分祭に行こう
 参加費 内部生 無料 その他100円
 9日(金) アポロ活動
 パレット河原町清掃活参加
 9日(金) 集い場O 散策部・学食 walk
 ミーティング 14時半から
 参加費無料 3月の予定を決めます。
 14日(水) 集い場O 活字倶楽部
 13時半から
 参加費 内部生無料 その他200円
 15日(木) 集い場O 学食 walk
 京都精華大学 12時事務所集合
 参加費 内部生100円 その他300円
 12月ミーティング参加者は100円引き
 16日(金) 集い場O ものづくりかふえ
 15時から 参加費無料
 作成物は欲しい方のみ実費必要
 20日(火) 集い場O 健康体操教室
 14時半から 参加費無料

※ここに掲載されてなくても臨時でイベントが追加されたりします。
 ブログ・フェイスブックページ・twitter などよかったですらご確認くださいね。

※参加費のカテゴリは下記のとおりです。
 内部生・・・費用前納制で居場所利用・学習サポート利用・家庭派遣をされている方
 その他・・・当所利用生以外(OB・他所利用者など)・後納付制利用生

※当所のフリースクール活動(アポロ活動・集い場O活動)参加時の居場所利用について

現在京都教育サポートセンターではフリースクール活動においてはどなたでも参加が可能となっています。フリースクール活動参加日における居場所利用(イベント時間以外での当所利用)については下記のルールを設定しています。

1. 内部生(前納制利用生全般)は通常通りの利用が可能です。
2. 内部生以外は活動終了後最大1時間まで(運営終了時間が早い場合はそこまで)とします。ただし居場所利用設定のない活動日を除きます。
毎週日曜・月曜 お休み

KSCE 全般もしくは通信に関するお問い合わせ・ご意見は、下記までお願いします。

E-mail の場合 soudan@ksce.jp、TEL/FAX の場合 075-211-0750、郵便は〒604-8005 京都府京都市中京区三条河原町東入ル恵比須町 439 早川ビル 6F 京都教育サポートセンター KSCE 通信係 まで。

2018年1月11日発行 特定非営利活動法人 京都教育サポートセンター